

所見の書き方

所見を書くことはたいへん難しいことです。

私は、初任の頃たった15名の所見に半日かかりました。

10時間くらいです。

まさに半日です。

タバコ2箱くらいその間に吸いましたから、ほとんど肺ガンへまっしぐらです。

幸い今は煙草もやめましたし、所見を書くのも少しは早くなりました。

つたない経験から皆さんにヒントを。

1 書式

具体的行動を 「廊下に落ちているゴミをさりげなく拾ったり、給食台のまわりに落ちているストローを捨てるなど」

評価し 「細やかな心遣いができる立派な」

名前を入れる 「洋くんです」

これは、書式の例ですが、かなり一般化されていると思います。

また、基本的な方針は次のようなことです。

2 基本方針

Aくんの所見なら、その所見の内容がAくんにしかあてはまらないように書く。

誰にでもあてはまるような、一般的な所見ではなくその子固有の内容になっている方がよいということです。

そうすると、子どもは、自分を的確に評価してくれている担任を信頼しますし、親は細かなところまで見てくれてと安心します。

こうかくと、結局いい所見を書けるかどうかは、普段子どもをどう見ているか、そしてきちんと記録をとっているかと言うことの反映でもあることがわかります。

3 上達の手段

人の書いた所見をたくさん読む。

たくさんいい所見を読むことが、いい所見を書く近道です。

書きたいことがあっても、書き方がわからないことはたくさんあります。

また、せっかく励ましたいという気持ちがあっても、子どもに上手く伝わらないのでは意味がありません。

ですから、「所見のかき方」というような本を読むこともとても大切です。

とりあえず、木原さんの所見は目を通すと相当に参考になると思います。

スゴイ所見です。